令和7年度　自己評価

幼保連携型認定こども園
浅草ひかりにこにこ園

〇本園の教育保育理念

子ども子育て支援法に基づき、子どもと共に歩み、一人ひとりを大切にし、子どもの自己肯定感を育てる。また保護者からも信頼され、地域に貢献できる認定こども園をめざす

〇本園の教育保育方針

・浄土真宗　親鸞様の教えに基づき、「共に生き、共に育ち合う教育保育」を　実践する。
・自己選択制教育保育を体現し、遊びの中で学び、子どもの自己肯定感を育てる教育保育を実践する。
・歳児担任制・未満児担当制を体現して、一人ひとりに寄り添い、子どもの個性を大切にする教育保育を実践する。

〇本園の教育保育目標

つよく　やさしく　豊かに伸びる子

強く	外で元気に遊ぶ子
	友だちと仲良く遊べる子
やさしく	あいさつのできる子
	人の気持ちが分かる子
豊かに伸びる子	自分のことは自分でする子
	何にでも挑戦しようとする子

☆本年度、重点的に取り組む目標・計画

・幼保連携型認定こども園9年目にあたり、引き続き、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容理解を基礎とした上で、あそび・環境を通した教育・保育を目指し、ゾーン活動・おやつルームに加えて、ランチルームの年間を通しての継続的な実施をする。また子ども主体の行事へのアプローチを加速させる。
・遊び環境による教育を実現していくための、室内環境・園庭環境のさらなる充実、精査を図る。
・職員の働き方へのアプローチを継続的に実施する。（ノーコンタクトタイムの実施、休憩時間の確保、定時の終業）

☆評価項目の達成及び取組状況

評価項目	達成度（A・B・C）	取組状況
幼保連携型認定こども園教育・保育要領を踏まえた教育・保育課程の編成・実施に関して職員間の共通理解をはかり、指導計画の反省評価を生かす。	A	当園の教育・保育過程を再検討し、学期案も継続して行ってきた。要領を踏まえた、教育保育の新しい形ができつつあり、職員間の意識の共有もできるようになってきている。今後もさらなる質の向上に努めたい。今年は内容の精査に加えて、行事日程のあり方、実施方法等の改善をしていった。
乳幼児の健康への配慮や安全に心を配り、保育教諭間の連携・協力をはかりながら、教育・保育の在り方や子どもへの対応に心掛ける。	A	安全に生活できるように、乳幼児の体調不良や怪我への対応・対策の理解と実施など、保育教諭間の連携・協力を行っている。保育教諭は子どもをみることを中心に仕事を進めるように、担任として入ってない職員や保育補助員や業務員により、消毒作業、清掃作業を継続的に行っている。

教育・保育の質の向上の為に、保育教諭としての資質や能力を高め、良識ある行動を取りながら保育教諭として適正に努める。	B	保育教諭としての職責の重要性に鑑みて、自らの資質・能力・倫理性の向上に努めた。外部研修の機会を設けた。引き続き、園内での保育教諭への書籍を多く購入して、今求められている教育保育の内容を知識として得ることができるように配慮した。
保護者への情報発信やニーズの把握に努め、要望や苦情に適切に対応を図る。	A	定期的にHP更新することにより、「子どもの育ち」の様子を伝えることができた。クラス便りをドキュメンテーション（写真入り便り）形式を継続的に行っており、あそび、育ちの視覚化をはかり、保護者と子どもの育ちを共有できるようにしている。手紙をダウンロード形式とし、いつでも見ることができるように対応した。今後も充実を図るとともに、R9年本格実施に向けて、ICT化への検討いている
保育教諭としての専門性を高める研修・研究や園内研修を実施し、発達に伴う乳幼児理解を図る。	B	外部への研修を定期的に実施に必要に応じて学びの機会を持てるようになった。また処遇改善に伴うキャリアアップも進んでいる。内部の園内研修の充実に関しては、今後の大きな課題として残っている。
乳幼児にふさわしい生活環境・遊び環境を、それぞれの年齢やクラスの様子に合わせて適切な環境を創り上げる。また集団の様子を踏まえて柔軟に変化するように努める。	A	乳幼児期にふさわしおもちゃを購入したり、室内生活環境の充実度は9年目を迎えて、あそびのなかで学ぶを体現できるようになっている。歳児担任たちも、自分たちで考え、環境を作り出せるようになってきている。今年度も新しいものの導入することにより、さらなる環境の充実を図ることができた。 園庭に関しても、新たな遊具の導入、園庭の改善に着手していきたい。
保幼小連携・地域施設との交流など地域の自然や社会との関わりを通しながら、地域に根ざした教育・保育の推進を図る。	B	子育て支援を年3回の実施ができるようになった。 地域交流も継続実施することができた。

☆総合的な評価

ゾーン・おやつルーム・ランチルームは年間の中で進めることができた。園の教育保育方針を体現するための大事なシステムとして、定着してきている。また未満児はゆるやかな担当制を他園の見学・研修会を通して、深化して改善を進めている。一人ひとりに合わせたゆとりのある教育保育を目指して進んでいる。個々の理解度の充実と共に、共通理解を深め、スムーズな連携をすることによりより質の高さを求めていきたい。

職員待遇の改善として、ノーコンタクトタイムと休憩時間の確保を進めている。どの部門の担当でも部屋から離れる時間を確保できるようにし、クラスの打ち合わせ等も、就業時間内にできるよに、職員配置等の工夫している。また給与面では大幅な待遇上昇を法人として実施した。継続的に働いてもらえたり、新規採用できるように今後も還元できるように配慮していく。

☆今後取り組むべき課題

課題	取組

働き方改革への取り組み	ノーコンタクトや休憩時間のさらなる確保に向けての、職員配置や工夫をしていく。また有給消化数を増やしていくための方策も検討し、実施していく。給与面においても、更なる充実を図る。
ICT化への移行	教育保育に対する、室内環境・内容に関するシステムや担当制などの質に関する部分に関しては、保証ができるようになってきている。今世の中の流れにICT化があり、それに対しての取り組みが遅れている現状がある。手紙の配布を無くして、業務負担の軽減をはかるともに、保護者にはダウンロード形式としていつでも見られるように配慮をした。給付費の条件項目にICT機能が必須となってきているので、令和9年度の本格導入を進めていく。

☆財務状況・監査状況

県監査が実施され、指導を受けて、書面事項に関しての改善を行った。法人内での内部監査及び、会計士により毎月の運営状況確認が実施され、財務状況は安定し、将来に向けての積立も実施することができ、適正に運営されていると認められた。